



2025年3月15日
第714号

1部10円(組合員は組合費に含む)
郵便振替00960-7-117274

発行 大阪教育合同労働組合
Education Workers and Amalgamated Union Osaka(EWA)
発行人 増田 俊道
連絡先 大阪市中央区北浜東1-17 8F

Tel (06)4793-0633 Fax(06)4793-0644 E-mail: info@ewaosaka.org http://www.ewaosaka.org

精神疾患はただちに休職？

組合は24年定期交渉で精神疾患を理由とする病気休職歴のある教職員が病気休暇を取得する際、精神疾患を理由とする場合には休職扱いとされる件について、重点項目として取り上げ議論しました。府・府教委は、この扱いはずっと以前から行われているものであり問題はないと回答しました。組合は取扱いを規定しているものを示すように要求しましたが、交渉後に府・府教委から送られてきたものは、2009年3月6日付事務連絡の文書でした。2008年12月22日、府・府教委は病気休職取得後、一年未満に同一疾患で休む場合、休職扱いとするなどそれまでと異なる大きな変更を提案し、組合は2回の団交を行

いました。その団交で議論されたのは、この大きな変更事項についてであり、組合に示された提案資料の中には、先にあげた事務通知とは異なる表現が書かれていたため、このような運用がずっと以前から行われていたことは組合員からの相談があって初めて気づくことになったわけです。ちなみに組合が同じ府内の堺市、大阪市に問い合わせたところ、府・府教委のように精神疾患のみを特別な扱いとする規定・運用はないとのことでした。

出てきたのは1970年通知

休職は休暇とは異なり、分限処分の一つになります。本人の意向にかかわらず行われ

ることを担保するため、手続きについては条例などで定める必要があります。しかし、府・府教委が示したものはそのように運用しろという事務通知であり、分限を定めた条例にも「医師の診断」により「心身の故障」が職務の遂行可能かどうかを判断としているだけで、精神疾患だけを特別に運用することを規定しているとは読み取れません。また、精神疾患かどうかの判断は、診断書が提出される各市町村教委や各学校長がまず負うことになり、多くの疾病が存在するなかで判断基準が明確でないと言えます。組合はこのような運用がなされていることを非常に問題があると考え、精神疾患のみを特別に

取扱うのではなく、他の疾病と同様の基準で休職発令を行うよう、人事委員会に措置の要求を行いました。その後、府・府教委から1970年(昭和45年)4月1日付の「精神疾患の取扱いについて(通知)」が「精神疾患により療養が必要となった場合はただちに休職発令を行う」運用の根拠であると組合への回答がありました。この通知によれば、精神疾患での病気休暇は診断書を取るためだけに病欠として認めるとしています。恐ろしく古いこの通知には当時の精神疾患への差別的取扱いが散見されます。今後、この妥当性を人事委員会で争って行きます。

酒井さとえ(書記長)

西日本討論集会 最低賃金闘争を徳島ショックから考える

2月15日～16日、徳島市内において西日本討論集会が行われました。徳島の労働組合をはじめとし、西日本各地からの参加者から反戦の取組み、外国人労働者、非正規労働者、最低賃金などあらゆる課題について議論されました。



その中でも、今年度徳島県内の最低賃金が全国最大の上げ幅となったことを示す「徳島ショック」が注目されました。中央最低賃金審議会の目安額から34円上回る84円(9.

4%)の引き上げとなった徳島県の最低賃金、その背景について地元徳島から報告されました。

昨年(2023年)度、最低賃金が全国平均1004円まで引き上げられた中、徳島は896円にとどまり、全国45位となりました。地元徳島新聞の社説で「低所得者の生活を守る意識の希薄さ」、労使代表と有識者の委員から構成される地方最低賃金審議会について

「とりわけ労働者側は猛省すべき」と取り上げられる事態となったこと、24年度は6月に最賃四国キャラバンを組み、徳島県内にとどまらず四国全体で行った要請行動の詳細が報告されました。結果、24年度は全国最大の上げ幅となり、

「徳島ショック」という言葉が誕生しましたが、当の県内労組の受け止めにそれほど熱さはありませんでした。そもそも、現在の最低賃金制度は県境をまたぐだけで異なる賃金となる不合理性、一方、多くの「非正規」労働者を中心とした賃金が最低賃金を基準とする現状では、全国一律の最低賃金の引き上げが重要だとの指摘が確認されました。

非正規問題解決の最難関は公務現場



組合は「非正規労働者問題」分科会で会計年度任用職員に代表される公務「非正規」の労働三権制約の状況について報告しました。同じく報告に立った郵政ユニオンからは、大手小売りにつぐ最多の「非正規」雇用先である郵政での労働契約法20条正規・非正規の待遇格差をなくす闘いについても報告されました。郵政は元「公務」であっただけに、労働者側への対応の冷淡さ、狡猾さについては、現在の「公務」現場に重なるものが多々あります。

2日間に渡る討論集会で改めて労働組合の存在意義を確認することになりました。

酒井さとえ(書記長)

大阪公立大学 森ノ宮新キャンパスのコマ数減で団交

2025年秋に新規に森ノ宮キャンパスが開設される大阪公立大学で働く英語の非常勤講師組合員の労働条件に関する団体交渉を3月7日におこないました。

公立大統合の過程で

非常勤講師のコマ数削減

大阪市立大学と大阪府立大学の統合は、2008年、橋下徹元大阪府知事が大阪府と大阪市の二重行政解消のシンボリックに打ち出したことが発端になります。それから約20年後の2022年4月に両校は統合され大阪公立大学となりましたが、この間、労働条件の変更等について組合を含め多くの団交が重ねられました。特に英語の非常勤講師として働く組合員たちは、大学の統合によりそれまでの持ちコマ数が

削減されることもありましたが、大学側は激変緩和措置を取りましたが、新キャンパスで1年次の基幹教育を行うという方針により、再び、組合員のコマ数が削減される恐れが生じています。

非常勤講師にとって

コマ数削減は死活問題

団交前の折衝も含め大学は、今回のコマ数削減の理由を教室数の不足によるものだと説明しました。今まで中百舌鳥や杉本キャンパスで分散して行われていた授業を一つのキャンパスに集約するため、教室数が足りないとしています。そのため、教室が足りない曜日・時間については別の時間に振替ることになり、そのコマを担当していた非常勤講師たちのコマが削減されること

になるとその理由を説明しました。



組合は、削減されるコマは組合員にとって次の授業への待機時間として実質的に無給でキャンパスに拘束されること、この間、組合員のコマ数は削減が続いており生活への深刻な影響が出ていることを訴え、労働条件変更回避への努力を果たしたと言えるのかを追及しました。大学側は組合の提案を持ち帰って検討することになりました。

府立・市立大学統合の「成果」が喧伝されることは多くありますが、そこで働く労働

者に大きな混乱を引き起こしています。大阪では安易に教育が政争の具として扱われてきましたが、その「成果」を振り返る必要があります。

五十里元子（特別執行委員）

当面の日程

- 3月22日(土)13:50～ エルリアー
対談:三牧聖子さん猿田佐世さん
とめよう戦争への道 関西のつどい実行委
 - 3月23日(日)13:00 うつぼ公園
やめてんか カジノ・万博
集会・パレード(難波まで)
 - 3.23. 夢洲あぶないパレード実行委
 - 春闘総行動 4月16日(水)
例年3月24日に行っていました講師雇用継続の闘争ですが、教師不足から講師早期内定が相次ぎ、結集のエネルギーが減退し、府教委前の集会は取りやめました。
- おおさかユニオンネットワークでは、現在7ヶ所のエントリーが有り、調整中です。詳細が決まり次第メールでお知らせします。

文化おちこち (275)

～いつか猫と縁側で～

6. 自分の理想は

自分でやればイイ～私の動物愛護活動は自己満足～

私は特定の団体には所属してませんが、個人的には病気や負傷の猫の保護とケアをすることが多く、時間とお金を使っただけの自己満足です。また、活動してる友人との長年の付き合いでセミナーやイベント、保護活動のお手伝いをしています。セミナーに参加して思うのは、質疑応答の時に「今、こんな活動しています」と自分語りをする人や、「もっと〇〇について団体でも誰か活動してください」とか言い出す人。質問が最後にちよろつとあればマシな方で、質問どこいった？で終わることも。活動はするものなので、その団体に入って自分で動けば良いと思うよ～と心でツッコミ入れています。



今、私のとなりにはいるのは、あずきちゃん(3歳)です。相談のあったノラ親子を保護し、子猫たちの譲渡会参加の準備で血液検査をしたところ、1匹だけ感染症「猫白血病」の陽性反応が出ました。致死率が高く子猫の時に感染、発症するとほぼ命を落とすと言われています。3歳まで生存できる確率も低く、ウイルスは唾液感染するので完全隔離が必要になり、発症した時はリンパ腫(悪性)が多く治療費は高額確定です。

自分の年齢と猫貯金を考えて、これからはあずきちゃんのケアに全振りしようとその時に決めました。ずっと、黒猫とも暮らしたいなと思っていただけにご縁がなく、黒猫あずきちゃんが最後に来てくれたんだなと勝手に運命と思いついてしまいました。

これからのずっと先に、猫白血病でなにあに？長生きしたもんね～と話したいな、いつかあずきちゃんと縁側で。(まじゅ)

2025年度 全学労組文科省交渉に向けて

昨年度から、交渉への取り組み方改革進行中で、2024年度は申入書の項目を整理し、今までと違った回答を引きだそうと考えました。2025年度は「今」「各組合で有効となっていくもの」を最優先した重点項目を世話人会から発信し、各組合で内容の掘り下げ、補充を行い、申入書を完成していこうとなりました。重点項目は交渉当日の議題となります。2025年度の重点項目は①給特法廃止 ②教員未配置による過重労働 ③休憩時間未取得 ④小中学校の授業時間短縮化による新たな取り組みについての4点が候補として上がっています。次点として、

⑤学テ(知事会から成績結果の公表の仕方に否定的な意見が出ている) ⑥私学の授業料無償化 ⑦教育のデジタル化が上がっています。重点項目(議題)から外れても、各組合から出た意見は申入書に組み込み、文書回答を求めます。

2月の会議では、標題・テーマを決めるのに精一杯で質問の組み立てには至っていません。各支部でも議論をお願いします。支部のない方はご意見をメールでお寄せください。

残念なお知らせです。全学労組前事務局長の兵庫自教労の高橋秀明さんがこの会議の10日後、2月25日に急死されました。ご冥福をお祈りいたします。

高田晴美(副執行委員長)

Make America Great Againはレーガンが唱えた▼彼はソ連最後の領袖となるゴルバチョフとINF条約を締結▼ソ連崩壊、冷戦の終結、ロシアの非共産化

で生まれたプーチンとトランプがウクライナとEUの頭越しに和平調停▼世界から総スカンも日本は人気のない万博の「切り札」にトランプを招待か?▼今のトランプでは万博の人気をさらに下げるだけ。